



別海町立
中春別小学校
学校だより

窓

第10号
発行責任者 校長 荒 雅樹
令和3年12月24日発行

学校は今日で2学期の教育活動を終わりました

12月1日には、大雨・強風のため早下校を行いました。その後、朝晩は冷え込みましたが、日中はプラスの気温の日が続きました。なかなか雪も降らず、例年にはなく暖かな12月だと思っていました。ところが、先週の金曜日からの雪で気温も下がり、中春別はあっという間に冬景色となりました。21日の朝から降り積もった雪により真っ白になったグラウンドでは、子どもたちが雪だるまづくりを楽しんでいました。小さな雪玉を転がすたびに大きくなる雪玉に歓声を上げたり、顔を真っ赤にして大きくなった雪玉を押ししたり、友達と声を掛け合って転がしたり……。グラウンドには、ずいぶんたくさんの雪玉ができあがりました。外で元気に遊ぶ子どもたちの姿をみて、とてもいいなあと思いました。

本日、第2学期の終業式がありました。体育館で待っていると学年ごとに入場し、子どもたちは前の人と間隔を開けて並び着座します。式が始まるのを静かに待っています。たったこれだけのことと思われるかも知れませんが、そこが中春っ子の素晴らしいところです。そんな子どもたちですから話を聞くときには姿勢を正し、体を向けて聞こうとします。当たり前のことかもしれませんが、「今何をするときなのか。」「何のためにここに集まっているか。」が分かっているからこそできることなのです。

朝読書の時間。まるで子どもたちがいないかのように、しんと静まり返っている2階の教室。本のページをめくる音だけががすかに聞こえてきます。たった10分間ですが、全校が読書に集中しています。その姿は1日2日でできるものではありません。今までの中春別小学校の子どもたちが創ってきた文化、つまりは「大事にしてきた落ち着いた学習環境」が脈々と受け継がれています。

授業中、特に耳にするのが、「分からないなあ。」「さっきはできたのになあ。」「これどうやるかな。」といった子どもたちのつぶやく声です。今やっていることを自分が分かっているかどうかを確かめながら学習しているからです。よく聞くと、「ここは分かるんだけど、ここ分からないから教えて。」「さっき、こうやってできたけど、今それできないの。どこか違うの。」それが高学年になると具体的な質問になってきます。ですから、授業では先生や友だちとのコミュニケーションがさらに活発になってきました。小さなことかもしれませんが、学び方としてこれからも大事にしていきたいことです。

明日から冬休みが始まります。子どもたちにとって、普段の学校生活とは違う生活となります。長期休業でしかできない経験をする有意義な休みになればと願っております。

先日、中春別地区スケートリンクがオープンしました。降った雪を踏み固め、深夜に及ぶ散水等の運営委員の皆様のご作業により、立派なリンクが完成いたしました。運営委員の皆様ありがとうございました。ぜひ、スケートで冬の体力づくりに励んでほしいと思います。

そして、3学期始業式の日には、事故や怪我など無く、子どもたち全員が元気に登校することを今から楽しみにしています。

今年もコロナ禍のため、感染防止対策を徹底しての運動会、音楽発表会、修学旅行・宿泊研修などの行事を行いながら、子どもの学びとわくわくを大事にしながら2学期を運営してきました。その間、保護者の皆様には様々な面からご支援ご協力を賜りました。本当にありがとうございました。

来る令和4年が皆様にとって良い年となりますように。

(12月24日 校長 荒 雅樹)